

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 2 部門第 6 区分  
 【発行日】平成 23 年 5 月 19 日 (2011.5.19)

【公開番号】特開 2009-102067 (P2009-102067A)  
 【公開日】平成 21 年 5 月 14 日 (2009.5.14)  
 【年通号数】公開・登録公報 2009-019  
 【出願番号】特願 2008-121304 (P2008-121304)  
 【国際特許分類】

**B 6 5 D 83/04 (2006.01)**

【F I】

B 6 5 D 83/04 E

B 6 5 D 83/04 H

【手続補正書】

【提出日】平成 23 年 3 月 31 日 (2011.3.31)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

粒状の収容物を収容した容器本体と、前記容器本体の一端部に形成された容器開口部と、前記容器本体の内側から前記容器開口部に連通し収容された前記収容物を一列に整列させる導入部と、前記導入部の前記容器開口部近傍に位置した固定係止部と、前記固定係止部に対向して突出する可動係止部と、この可動係止部に設けられこの可動係止部が所定位置から前記固定係止部と離れる方向に移動すると前記所定位置に戻す力が働く弾性体とを有した計量容器において、

前記容器開口部の外側に位置して、前記容器開口部に対向する対向物との間に形成され、収容された前記収容物が所望の数で収容される大きさを有する収容空間と、

前記可動係止部と一体に設けられ、前記収容物を取り出す取出口から外側に突出した押込部とを備え、

前記弾性体は、前記可動係止部及び前記押込部と一体に形成され、

前記固定係止部と前記可動係止部の間隔は、前記可動係止部が前記所定位置にあるときは前記収容物の外径よりも小さく、前記押込部を押圧して前記可動係止部を前記弾性体の弾性力に抗して前記固定係止部から離れる方向に移動させると前記収容物の外径よりも広くなり、前記可動係止部を前記対向物に押し付けている限り前記収容物の外径よりも広い幅を維持し、前記収容物が前記取出口を通過可能となり、

前記容器開口部から前記収容空間に所望の数が移動し、前記収納空間に前記内容物が充填されるとともに、前記収容空間への前記内容物の充填により、前記固定係止部と前記可動係止部の間を前記収容物が通過するのを阻止し、前記対向物から前記押込部を離すと、前記可動係止部が前記弾性体の弾性力により元の位置に戻り、前記収容空間内への前記内容物の進入が阻止されることを特徴とする計量容器。

【請求項 2】

前記容器本体は上方が開口された内ケースと、前記内ケースを摺動可能に嵌合する外ケースから成り、

前記外ケースには、前記容器開口部と、前記導入部の片側一方の側壁部を形成する第一導入部突起が設けられ、

前記内ケースには、前記導入部の他方の側壁部を形成する第二導入部突起と、前記外ケ

ースの前記容器開口部と連通する内ケース開口部と、前記内ケース開口部の一方の端部に形成された前記固定係止部とが設けられ、

前記内ケースは、前記内ケース開口部が前記外ケースの前記容器開口部に一致する方向に摺動し、前記内ケース開口部と前記容器開口部が一致するとき、前記内ケースの前記押込部が前記容器開口部の外側に突出し、前記第一導入部突起と前記第二導入部突起は互いに平行に位置して一对の側壁部となりその間に前記導入部が形成され、

前記押込部を前記対向物に押し当てて押し込むと、前記弾性体が撓み前記可動係止部が前記固定係止部から離れ、前記収容物が前記容器開口部から取り出し可能となることを特徴とする請求項 1 記載の計量容器。

【請求項 3】

前記内ケースの前記内ケース開口部が前記外ケースの前記容器開口部から所定距離離れたとき、前記第一導入部突起と前記第二導入部突起が互いに連続し、前記内ケース開口部と前記内ケースに収容された前記収容物を区切ることを特徴とする請求項 2 記載の計量容器。

【請求項 4】

前記容器開口部には、前記導入部が円筒状に設けられたノズル中栓と、前記ノズル中栓の先端面に開口された前記導入部の取出口と、前記取出口の近傍に位置した前記固定係止部と、前記導入部の前記固定係止部と対向する部分に形成された切欠部と、前記切欠部に移動可能に形成された前記可動係止部と、前記可動係止部に一端部が連結された前記弾性体が設けられ、前記弾性体の前記可動係止部が設けられた側とは反対側に位置した部分は、前記導入部の先端部よりも突出して折り返し前記ノズル中栓の一部に取り付けられていることを特徴とする請求項 1 記載の計量容器。

【請求項 5】

前記容器本体は上方が開口された内ケースと、前記内ケースを摺動可能に嵌合する外ケースから成り、

前記外ケースには、前記内ケースの摺動方向に交差して開口され前記内ケースが突没する開口部が設けられ、

前記内ケースには、前記外ケースから摺動させて露出し摺動方向に交差して開口する内ケース開口部と、前記内ケース開口部の摺動方向の前記外ケース側の端部に形成された前記固定係止部と、前記内ケース開口部の他方の端部に形成され前記内ケースの摺動方向に弾性変形する前記弾性体と、前記弾性体に設けられ前記内ケース開口部の端部から少し離れた位置に設けられ内ケース開口部に対して斜めに交差する側壁部である第一ガイドリブと、前記固定係止部に対向して前記第一ガイドリブに設けられた前記可動係止部と、前記内ケースに設けられ前記内ケースの中心付近に延出し前記内ケースの側面との間で前記第一ガイドリブへ向かう通路部を形成する第二ガイドリブが設けられ、

前記外ケースから前記内ケースを突出させた状態で、突出した前記弾性体を前記内ケース内側に押し込むことにより前記弾性体が撓み、前記可動係止部と前記固定係止部の間隔が前記収容物の径よりも大きくなり、前記収容物が前記可動係止部と前記固定係止部の間を通過し、

前記弾性体の撓みにより前記弾性体の端部が前記固定係止部に接近して前記収容物の径よりも間隔が狭くなり、前記収容物が前記弾性体の端部と前記固定係止部の間に保持され、

再び前記弾性体の弾性変形が復元すると、前記可動係止部と前記固定係止部の間隔が前記収容物の径よりも小さくなるとともに、前記固定係止部と前記弾性体の端部との間隔が前記収容物の径よりも大きくなり前記収容物が取り出し可能となることを特徴とする請求項 1 記載の計量容器。

【請求項 6】

前記弾性片の前記第一ガイドリブよりも前記内ケース開口部側に設けられ前記収容物を保持する保持板と、前記保持板に当接した前記収容物を支持する整列突起が前記内ケース開口部に設けられたことを特徴とする請求項 5 記載の計量容器。

## 【請求項 7】

前記容器開口部には蓋本体が設けられ、

前記蓋本体には、容器開口部に嵌合される筒状の取付部と、前記取付部を閉鎖する片持ちの板状の前記弾性体と、前記弾性体の先端部と前記取付部との間に形成された前記取出口と、前記弾性体の前記取出口側の先端部に形成され前記容器本体内部に突出するガイド突起と、前記弾性体の先端部に形成され前記容器本体外部に突出する前記押込部と、前記弾性体の先端部に形成され前記取出口へ突出する前記可動係止部と、前記取付部の前記取出口に位置した固定係止部が設けられ、

前記押込部を前記対向物に押し当てると、前記弾性体が撓み前記可動係止部が前記固定係止部から離れ、前記可動係止部と前記固定係止部の間隔が前記収容物の径よりも大きくなり、前記収容物が前記可動係止部と前記固定係止部の間を通過し、

前記弾性体の撓みにより押込部が前記固定係止部に接近して前記収容物の径よりも間隔が狭くなり、前記収容物が前記押込部と前記固定係止部の間に保持され、

再び前記弾性体の弾性変形が復元すると、前記可動係止部と前記固定係止部の間隔が前記収容物の径よりも小さくなるとともに、前記固定係止部と前記押込部との間隔が前記収容物の径よりも大きくなり前記収容物が取り出し可能となることを特徴とする請求項 1 記載の計量容器。

## 【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明は、丸剤を含む錠剤等の粒状の収容物を収容した容器本体と、前記容器本体の一端部に形成された容器開口部と、前記容器本体の内側から前記容器開口部に連通し収容された前記収容物を一列に整列させる導入部と、前記導入部の前記容器開口部近傍に位置した固定係止部と、前記固定係止部に対向して突出する可動係止部と、この可動係止部に設けられこの可動係止部が所定位置から前記固定係止部と離れる方向に移動すると前記所定位置に戻す力が働く弾性体とを有した計量容器であって、前記容器開口部の外側に位置して、前記容器開口部に対向する対向物との間に形成され、収容された前記収容物が所望の数で収容される大きさを有する収容空間と、前記可動係止部と一体に設けられ、前記収容物を取り出す取出口から外側に突出した押込部とを備え、前記弾性体は、前記可動係止部及び前記押込部と一体に形成され、前記固定係止部と前記可動係止部の間隔は、前記可動係止部が前記所定位置にあるときは前記収容物の外径よりも小さく、前記押込部を押圧して前記可動係止部を前記弾性体の弾性力に抗して前記固定係止部から離れる方向に移動させると前記収容物の外径よりも広くなり、前記可動係止部を前記対向物に押し付けている限り前記収容物の外径よりも広い幅を維持し、前記収容物が前記取出口を通過可能となり、前記容器開口部から前記収容空間に所望の数が移動し、前記収納空間に前記内容物が充填されるとともに、前記収容空間への前記内容物の充填により、前記固定係止部と前記可動係止部の間を前記収容物が通過するのを阻止し、前記対向物から前記押込部を離すと、前記可動係止部が前記弾性体の弾性力により元の位置に戻り、前記収容空間内への前記内容物の進入が阻止される計量容器である。

## 【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

さらに、前記容器本体は上方が開口された内ケースと、前記内ケースを摺動可能に嵌合する外ケースから成り、前記外ケースには、前記容器開口部と、前記導入部の片側一方の

側壁部を形成する第一導入部突起が設けられ、前記内ケースには、前記導入部の他方の側壁部を形成する第二導入部突起と、前記外ケースの前記容器開口部と連通する内ケース開口部と、前記内ケース開口部の一方の端部に形成された前記固定係止部とが設けられ、前記内ケースは、前記内ケース開口部が前記外ケースの前記容器開口部に一致する方向に摺動し、前記内ケース開口部と前記容器開口部が一致するとき、前記内ケースの前記押込部が前記容器開口部の外側に突出し、前記第一導入部突起と前記第二導入部突起は互いに平行に位置して一对の側壁部となりその間に前記導入部が形成され、前記押込部を前記対向物に押し当てて押し込むと、前記弾性体が撓み前記可動係止部が前記固定係止部から離れ、前記収容物が前記容器開口部から取り出し可能となる計量容器である。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

また、前記容器開口部には、前記導入部が円筒状に設けられたノズル中栓と、前記ノズル中栓の先端面に開口された前記導入部の取出口と、前記取出口の近傍に位置した前記固定係止部と、前記導入部の前記固定係止部と対向する部分に形成された切欠部と、前記切欠部に移動可能に形成された前記可動係止部と、前記可動係止部に一端部が連結された前記弾性体が設けられ、前記弾性体の前記可動係止部が設けられた側とは反対側に位置した部分は、前記導入部の先端部よりも突出して折り返し前記ノズル中栓の一部に取り付けられている計量容器である。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

また、前記容器本体は上方が開口された内ケースと、前記内ケースを摺動可能に嵌合する外ケースから成り、前記外ケースには、前記内ケースの摺動方向に交差して開口され前記内ケースが突没する開口部が設けられ、前記内ケースには、前記外ケースから摺動させて露出し摺動方向に交差して開口する内ケース開口部と、前記内ケース開口部の摺動方向の前記外ケース側の端部に形成された前記固定係止部と、前記内ケース開口部の他方の端部に形成され前記内ケースの摺動方向に弾性変形する前記弾性体と、前記弾性体に設けられ前記内ケース開口部の端部から少し離れた位置に設けられ内ケース開口部に対して斜めに交差する側壁部である第一ガイドリブと、前記固定係止部に対向して前記第一ガイドリブに設けられた前記可動係止部と、前記内ケースに設けられ前記内ケースの中心付近に延出し前記内ケースの側面との間で前記第一ガイドリブへ向かう通路部を形成する第二ガイドリブが設けられ、前記外ケースから前記内ケースを突出させた状態で、突出した前記弾性体を前記内ケース内側に押し込むことにより前記弾性体が撓み、前記可動係止部と前記固定係止部の間隔が前記収容物の径よりも大きくなり、前記収容物が前記可動係止部と前記固定係止部の間を通過し、前記弾性体の撓みにより前記弾性体の端部が前記固定係止部に接近して前記収容物の径よりも間隔が狭くなり、前記収容物が前記弾性体の端部と前記固定係止部の間に保持され、再び前記弾性体の弾性変形が復元すると、前記可動係止部と前記固定係止部の間隔が前記収容物の径よりも小さくなるとともに、前記固定係止部と前記弾性体の端部との間隔が前記収容物の径よりも大きくなり前記収容物が取り出し可能となる計量容器である。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

## 【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【0013】

また、前記容器開口部には蓋本体が設けられ、前記蓋本体には、容器開口部に嵌合される筒状の取付部と、前記取付部を閉鎖する片持ちの板状の前記弾性体と、前記弾性体の先端部と前記取付部との間に形成された前記取出口と、前記弾性体の前記取出口側の先端部に形成され前記容器本体内側に突出するガイド突起と、前記弾性体の先端部に形成され前記容器本体外側に突出する前記押込部と、前記弾性体の先端部に形成され前記取出口へ突出する前記可動係止部と、前記取付部の前記取出口に位置した固定係止部が設けられ、前記押込部を前記対向物に押し当てると、前記弾性体が撓み前記可動係止部が前記固定係止部から離れ、前記可動係止部と前記固定係止部の間隔が前記収容物の径よりも大きくなり、前記収容物が前記可動係止部と前記固定係止部の間を通過し、前記弾性体の撓みにより押込部が前記固定係止部に接近して前記収容物の径よりも間隔が狭くなり、前記収容物が前記押込部と前記固定係止部の間に保持され、再び前記弾性体の弾性変形が復元すると、前記可動係止部と前記固定係止部の間隔が前記収容物の径よりも小さくなるとともに、前記固定係止部と前記押込部との間隔が前記収容物の径よりも大きくなり前記収容物を取り出し可能となる計量容器である。前記蓋本体は、ヒンジ部を介して前記取付部等に連結されたものや、キャップが設けられたものでも良い。